



# 学院時報

No.104

令和7年3月1日発行

## 聖ドミニコ学院

幼稚園・小学校

中学校・高等学校

〒980-0874

仙台市青葉区角五郎2-2-14

URL: <http://www.dominic.ac.jp>

TEL 022(222)6337

FAX 022(221)6203

北仙台幼稚園

〒981-0914

青葉区堤通雨宮町11-11

TEL 022(234)3615

FAX 022(342)0555

### 聖ドミニコと聖母マリア

聖ドミニコ学院理事長

マリア アスンタ中里 郁子



聖ドミニコ学院の  
中庭に、聖  
ドミニコの像が  
あるのをご存じ  
でしょうか？聖

ドミニコは、イエス・キリストを抱く聖母マリアの足元にひざまずいてロザリオを受け取っています。聖母マリアを通して神に捧げる祈りであるロザリオの祈りは、聖ドミニコに従う兄弟達が熱心に唱え、教会の中に広められたとされる伝統があります。ロザリオの祈りは、聖母マリアの生涯を黙想しながら珠を繰り、アヴェ・マリアの祈り十回と主の祈り一回を繰り返し、一環で五十回のアヴェ・マリアを唱えます。本学院でも園児・児童・生徒の皆さんはアヴェ・マリアの祈りに日頃から親しんでおり、5月にはマリア祭を祝っております。

ました。聖ドミニコとその兄弟姉妹達は、イエスの母であるマリアの加護を祈り、聖母マリアを守護者として崇敬してきました。

画家フラ・アンジュリコの描いた



絵の題材ともなった言い伝えの中に、聖母マリアがご自分のマントをドミニコの前に披げると、大勢のドミニコの兄弟達が、そのマントの下に集められて、聖母マリアに守られている様子であったので、ドミニコが神と聖母マリアに感謝を捧げたという話があります。聖ドミニコの精神をモットーとして創設された聖ドミニコ学院に学ぶ園児・児童・生徒の皆さんが、その生活の中で喜びの時も、苦しみの時も、常に聖母マリアの取り次ぎによって守られ、勇気を持って様々なことに挑戦し、大きく成長されますように祈っております。

### 神は私たちと共におられる

(マタイ11:23)

中学校高等学校校長

マリエディット

柚木 洋子



2月11日はルルドの聖母の記念日です。世界中のカトリック教会とミッシェンスクールにご像が安置されています。

す。1858年聖母マリアがベルナデッタという少女に出現され、そこに湧き出た泉は今も癒しを求める人たちの最大の巡礼地です。

先ごろ、教皇付き説教者が交代したとの記事を目にしました。その主な任務は教皇様の黙想時の説教講話です。かつてこのイタリア人司祭は、コンピューター科学と数学を修めた方でカトリックの召命を受けたきっかけは地下鉄内の「マタイ」による福音書を読んだことだったとあります。神さまだけが一人ひとりの心をご存じで自由に働きかけられることに改めて驚かせられました。

聖ドミニコもいつも携えていたといわれる「マタイ福音書」にはイエスという名が「主は救う」という意味で、インマヌエル（神が我々と共におられる）としてこの世に来られ、私たちの間に生きておられる方だとあります。春の陽ざしに照らされて、皆さんの深い望みが開花しますように、お祈りいたします。

### 輝くドミニコハーモニー

合唱団顧問 齋藤 朋枝

今年度はNHK全国学校音楽コンクール全国大会に初出場。合唱の強豪地域「東北の壁」の突破は、ドミニコ合唱団の悲願であった。宮城県から一八年ぶりに全国大会出場を果たした子ども達の粘り強い頑張りを、本場に誇らしめ放す。NHKホールを会場に、生放送での本番。想像以上の緊張と不安

★「第11回卒業演奏会」開催のお知らせ  
令和7年 三月三十日(日)  
開場 十三時半 開演 十四時  
会場 聖ドミニコ学院 聖堂 入場無料



### 聖書のいっせ

悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。  
(ローマの信徒への手紙 12章21節)

辛いとき、悲しいとき、  
辛い人に辛く当たってしまっ  
たことはありませんか。  
自分の悲しい気持ちを素直  
に出せなくて、ひどいこと  
を言ったり、冷たい態度を  
取ってしまった。

ひどい仕打ちを受けた人は、さらにほかの人に辛く当たってしまい、文字通りの悪循環です。この反対が善循環です。幸せだから、人にやさしく接するだけではなく、辛いときにも愛に満ちた生き方をする。それが次々と周りの人たちの心に愛を生み出します。

正しいこと、それは神と隣人を愛することです。神の愛に支えられ、隣人愛を実践する生き方を実践しましょう。それが真理、わたしたちの学院のモットーです。

中高宗教科主任 菊森 拓也

## 幼稚園

## 運動会

「げんき100パーセント！ドミニコわんぱく運動会!!」今年の運動会は、このテーマのもと、子どもたちの力をたくさん見ていただく一日となりました。かけっこ、お遊戯、組体操、玉入れなど、どの種目も毎日一生懸命練習を重ねてきました。

そして迎えた本番。前日の雨を吹き飛ばし、晴れ渡る青空のもと、子どもたちは、胸を弾ませて入場しました。たくさんさんの保護者の皆様に見守られ、ちよっぴり緊張しながらも友達と一緒に楽しみながら力を発揮！ゴール目指して駆け抜けるかけっこ、元気いっぱい楽しく踊るお遊戯、心を一つに挑んだ組体操やリレー、どの場面も輝いていました。保護者の皆様の熱い応援に背中を押され、最後まで頑張り抜いた子どもたち。閉会式では、頑張った証のキラキラのトロフィーやメダルを受け取り、満面の笑みを浮かべていました。

自分の力を十分発揮して挑戦したこの運動会。きつと、大きな自信につながったことでしょう！



## 園外仲良しランド

十月三十一日、小学生のお兄さん・お姉さんと手をつないで河原へ出かけました。子どもたちは「赤い葉っぱ」「ザラザラする植物」「虫」などを探索フィールドビンゴのカードを手にしながら出発です。河原に着くと、ペアのお兄さん、お姉さんが優しく声をかけてくれ、一緒にたくさんさんの自然に触れながら楽しんでいました。見つけるごとに先生からスタンプを押してもらい、すべてビンゴになるとキラキラシールをもらえるとあって、子どもたちは大はしゃぎ！さらに、お兄さん、お姉さんが虫や植物のことを教えてくれるたびに、「知らなかった！」と驚きや発見の笑顔が広がりました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、帰る間際にはサプライズが：小学生が手作りのメッセー

ジ付きのメダルをプレゼントしてくれました。思いがけない贈り物に、子どもたちは大喜び。「また、お兄さん、お姉さんと遊びたい!」と、名残惜しうに何度も手を振っていました。

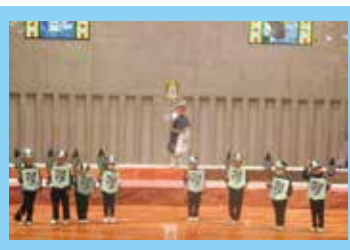


## 聖劇

今年度の聖劇は、感染症が流行する前の形に戻し、全園児でイエス様の降誕劇を演じました。満三歳児から年長児まで一人一人が大切な役割を担い、心を込めて舞台を作り上げました。

最初は恥ずかしそうに小さな声で台詞を言っていた子どもたちも、練習を重ねるうちに気持ちが高まっていくようになりました。本番では、少し緊張しながらも一人一人がそれぞれの思いを込めてイエス様の誕生を喜び、歌や踊り、台詞を通して伝えたことで、静かな感動が広がりました。そして、全園児が揃い「しずけき」を歌うと、聖堂は温かい空気に包まれました。子どもたちの澄んだ歌声に、見守る保護者の皆様も胸がいっぱいになったのではないのでしょうか。

イエス様のお誕生を心からお祝いし、また来年も素敵なクリスマスを迎えられるよう、子どもたちと一緒に私たちが日々の生活の中で感謝の気持ちをおこにしたいと思っています。

バスと共に  
歩んだ園生活

佐藤 友美子

一番遠いバス停を利用した娘と息子。マリア組の頃は、バスに乗っているか外からではわからないほど小さかった息子が、今では表情が見えるほどまでに成長しました。チューリップ号にはドラマがあり、特に雪の日は渋滞で遅れてきたバスの登場がまるで映画のワンシーンのようなかつこよさでバス停のみんなで盛り上がり上ったのが忘れられません。バスの運転手さんをはじめ、添乗していただいた先生たちのおかげで往復一時間が大切な園生活の一部になりました。

真っ赤な顔をして戦ったサッカー大会、たすきをかけて最後まで諦めずに走り切ったリレー、大きな声で歌声をきかせてくれた聖劇。どれも今後の息子の人生において大きな糧となるでしょう。関わって下さった全てのかたに心より感謝いたします。



## 発表会

## 北仙台幼稚園

年少

年少児にとって初めての発表会は「てぶくろ」の劇を行いました。絵本とパネルシアターを見て「てぶくろ」のお話について知り何の役をやりたいか自分で選びました。自分で選んだからこそ愛着を持ち、なりきって演じることができました。役決めの際には譲り合う姿が見られ、成長を感じる場面がありました。

本番の舞台袖では緊張の表情の子供たち。

不安で泣きそうな友達の手を繋いであげる姿があり、一か月半の練習期間で子供たちの中に見えない絆が芽生えている事を感じました。ステージに立つと沢山のお客様に前に緊張している様子でしたが、劇が進むにつれて少しずつ表情も和らぎ、練習時のように自信を持って最後まで演じる事ができました。

劇を通して、思いやりの心や友達を大切にする事を学んだ年少児は、これからも仲間を大切に、みんなでまた次のチャレンジに向かって頑張っていくと思います。

年中

年中児の発表会では「ともだちほしいなおおかみくんの」劇をしました。本当はとっても優しいのに森の動物たちは怖がって遊んでくれません。いつも独りぼっちのおおかみくん。絵本を読み進めると、子供たちから「かわいそう」の声、しかし最後にはお互いのことを思い合って分かちあえたことに感動したようです。

時に日常生活の中で友達とぶつかり合うこともあります。見た目や思い込みで判断しないことや心を開いて接してみればお互いの優しさにふれあえる。互いに認め合う大切さを感じていたようです。練習を進める中でセリフや歌を覚えアドリブした動きをつけている姿や自分たちで楽しみながら練習に励んでいる姿に、年中児としての成長を感じました。

劇を通して学んだことや一つの事をみんなでやり遂げた喜びをこれからの活動や友達関係に繋げていきますように。

年長

年長児は聖劇「一番初めのクリスマス」を発表会で披露しました。一年前に憧れの年長児が見せてくれた聖劇は、年長になると挑戦出来るものと考えていて、去年からどの役になりたいか期待していたようです。その役の希望を聞くや否や、手を挙げて発言が止まらなくなったため、そこで、宗教の時間に庄子先生からクリスマスについてのお話を伺いました。クリスマスの意味を知った子供たちは、年下の子や家族に劇のどんなお話を伝えたいか、自分のどんな発表を見せていきたいかを、憧れの気持ちに加えて考えて役を決めていきました。一つの役にセリフは三つ以上、加えて役毎の歌も一曲以上覚える事に挑戦しました。ステージの上で大きな声で発表する恥ずかしさも出てきた年長児にとって抵抗感もある中「セリフのバトン」を最後まで繋ぐ事を目標に三十八人で力を合わせた発表会が完成し、子供たちにとって達成感一杯の思い出になったようです。



## クリスマス礼拝会

イエス様に良い心をプレゼントしようという待降節の間、心の花束に励んでいた子供たち。困っているお友達に優しく声を掛けたり、率先して落ちているゴミを拾ったりと良いことをしてクリスマスツリーにシールを貼っていききました。いつの間にか、飾りでいっぱいになったクリスマスツリー。子供たちは礼拝会でイエス様にプレゼントできる事を心待ちにしていました。また、待降節の間に、世界には戦争している国があることや、貧しい国があること、災害や病気で苦しんでいる方々がいることなどを知り、私たちができることを考えながらお祈りして過ごすことができました。

十二月十三日（金）クリスマス礼拝会当日は、コーラス部の方々の美しい楽曲・歌が鳴り響く中、北仙台教会でミサが行われ、みんなでお祈りできたことは、貴重な時間となりました。

イエス様も子供たちの心のプレゼントを喜んでくださったことでしょう。世界中の人々があたたかく幸せなクリスマスを迎えられ、平和な世界でありますように。



## 感謝巡り

十月三十日に年少・年中児は消防署、十一月十三日に年長児は警察署へ感謝を伝えるため行ってきました。当日どちらも、朝から雨が降っていて、不安な様子を子供たちは見せていましたが、いざ出発となると雨は止み、無事行くことができました。

消防署で年少・年中児は、キラキラした目で消防署内を見学していました。そして、消防署の方には感謝の気持ちを伝えるプレゼントを贈りました。しっかりと感謝を伝えられた子供たちは笑顔に溢れていました。

年長児は、警察署に行く前に警察の方には「どんな仕事をしているのか」を教師と考えるから出発しました。警察署に着くと自ら挨拶し、またプレゼントを贈る際には大きな声で感謝を伝えていた姿はとても素敵でした。そして、警察署の方からプレゼントとパトカー見学をさせて頂き、子供たちは喜んだ様子でした。

素敵なお思い出になった活動でした。



## 小 学 校

## 長距離走記録会

十一月二十六日に、長距離走記録会がありました。全校児童がたてわりの六色に分かれ、一・二年生は六〇〇メートル、三・四年生は八〇〇メートル、五・六年生は一〇〇〇メートルの距離を走りました。子供たちは、約一カ月「一歩でも前へ！一秒でも先に！前人未踏のいただきへ！一走入魂！」のスローガンのもと、一生懸命走り続けました。一・二年生の子供たちの感想を紹介します。

## 一 年 阿部 心咲

さいしよは三しゅうでもつかれて、きついなあとおもいました。まい日れんしゅうするうちに五しゅう、六しゅうと、はしれるようになってきました。

本ばんがはじまると、ドキドキでした。はしりはじめてみんなにぬかされていったのが、すこしくやさしかったです。でも、さいごのほうにぬかすことができませんでした。タイムそくていときは九いだったのが、本ばんでは七いにあがってうれしかったです。

まい日はしるのをつづけたことがけっかにあらわれて、がんばってよかったとおもいました。

## 一 年 高橋 良多

がんばろうしゅうかんでは、まい日、あさと十五ふん休みにはまりました。足がいたいこともあったけれど、たのしかったです。

たいいくのタイムそくていでは、二いか、どうちゃくの二いでした。だから、本ばんでは二いになりたいとおもっていました。

本ばんは、おかあさんが見にきていたので、きんちようしました。ドキドキしながらむちゅうではしったら、あつというまにゴールでした。二いになりました！二いとは一びようさでした。

らい年はもつとはやくはしってチームでゆうしようしたいです。

## 一 年 東海林 環那

わたしは、長きより走記ろう会のがんばろう週間で、五分間で長いきよりを走るれんしゅうをしました。休みの日にも、おにごっこをして足をつかう遊びをしていました。スローガンのように、大へんな時も少しづつがんばってれんしゅうしました。

ついに本番です。スタートラインにならんだ時はとてもこわかったけれど、れんしゅうの通り走ったら、だんだんとなれていきました。あと少しでゴールのところで、一気にぜんそく力を出し切って走りました。走りおわった後は、とてもつかれていたけれど、たくさんれんしゅうをがんばっていたので、本番では自己ベストを出せたと思います。

チームがゆうしようできなかったのはざんねんでしたが、みんなでがんばれたのがよかったです。来年の長きより走記ろう会も楽しみです。

## 二 年 中島 啓太郎

ぼくは、長きより走記ろう会で、二いを目ざして、ぜん力しつ走することが目標ようでした。そのために、ぼくはがんばろう週間で毎朝走りに行きました。

本番になってスタートラインに立った時、心ぞうがドキドキしました。走っていると中に、何どかぼくの後ろを走っていた友だちにぬかされそうになりました。その時、ぬかされないようにスピードを上げてがんばって走りました。ゴールについた時、ぼくは一いでした。ぼくは、とてもうれしかったです。じん地にもどった後、「さすがだね。」と、友だちに言われました。ぼくはうれしい気もちになり、「ありがとう。」と言いました。

ひようしよう式では、べつのグループで走っていた友だちが一いだったので、くやしかったです。来年こそは、学年で一番になりたいです。



## 花山合宿

三・四年は一泊二日、五・六年は二泊三日で栗原市にある花山青少年自然の家に野外活動に行きます。家を離れて、たてわりのメンバーと協力して過ごします。自然の中で仲間と活動し、学んだことや感じたことを子供たちが振り返って書きました。

## 三 年 佐々木 智穂

わたしは、「花山合宿で心に残ったこと」というと、スコアオリエンテーリングで山登りをしたときの自然を思い出します。特に、森の中には様々な緑色があり、美しいなと思いました。そして、歩く途中で虫がいたり、栗が落ちていたりしました。一番上の場所までは行けませんでした。その一つ前のクイズまでは解けてうれしかったです。少し迷ってしまいました。四年生が道を教えてくれました。たどり着くことができました。難しいクイズ、簡単なクイズ、いろいろなクイズがあり面白かったです。

来年も、スコアオリエンテーリングで、多くの大自然を見て帰ってきたいです。花山のスコアオリエンテーリング、最高！

## 三 年 安田 春乃

わたしは、一日目の沢遊びがとても楽しかったです。深く、歩きにくいところもありました。沢の水は、つめたかった。

たけれど、だんだんと慣れていきました。浮かんでみたら、とても気持ちよかったです。その夜、私たちはつかれていたはずなのに、部屋の中でたくさん話をして、楽しみました。そして、ねむる時にも、すぐにはねぐれませんでした。次の日は、スコアオリエンテーリングでした。雨がふって、歩くのが大変でした。でも、道の中で先生たちに会うたびにうれしくなりました。今年は、四年生に引っ張ってもらったけれど、「来年は、私たちが次の三年生を引っ張って行くのだな」と思うと、ドキドキしてきました。四年生になったら、きちんと三年生に今年のことを教えてあげたいです。



## クリスマス礼拝会

十二月二十五日は、イエス・キリストがこの世にお生まれになった日です。みんなでお祝いするために、毎年合唱団と六年生が中心となり礼拝会を執り行います。

待降節期間は「痛む愛を実践しよう」の学校目標と個人目標を達成するために

日々努力をして、イエス様にお捧げします。一人一人が他の人のために行動しました。感想を紹介します。

六年 高橋 共里

今年の待降節は、今までよりも目的を持って過ごすことができました。今年の学校目標である痛む愛を実践することはとても難しいと僕は思いました。なぜなら、痛む愛とはどういうことを考えなければいけないかと思うからです。僕が思う痛む愛とは、困っている人がいたら自分のことを後回しにしてでもその人を助けることだと思います。そのことを意識しながらいつもより考えて行動し、礼拝会までの待降節の期間を過ごすことができました。

クリスマス礼拝会ではこれまでの練習の成果を発揮し、六年生のみならず合唱団そして先生方と聖劇を作り上げることができてうれしかったです。また、努力の捧げ物のろうソクに火が着いたとき、これまでのクラスみんなの努力が実ったと思いました。今年は去年までとは違



い、クリスマスの本来の意味を伝える側としてしっかりと伝え、皆と楽しくクリスマス礼拝会を作り上げることができて良かったです。

## 【仙台市文化芸術賞】受賞



【仙台市文化芸術賞】の今年度受賞者として、聖ドミニコ学院小学校合唱団、三年の佐藤希咲さん、そして合唱団OB（二〇二二年度団長）で現在ドミニコ中二年の松本廉生さんが選出されました。この賞は、文化芸術の全国規模の連盟等が主催する大会・コンクール等で優秀な成績を収めた方々の功績をたたえるために、仙台市が令和四年度に創設しました。三月一九日に仙台市役所で行われる表彰式では、市長から賞状と盾を頂きます。今年度の【仙台市文化芸術賞】には個人六名に加え、二団体が受賞しました。この中で、ドミニコ小に関わる面々が偶然にも同時受賞という驚きの結果に、喜びも一層溢れます。

以下、受賞の喜びの声をお届けします。

三年 佐藤 希咲

第一五回ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan 全国大会  
自由曲コース小学生三・四年生部門  
金賞

日々の努力が実を結び、素晴らしい賞をいただけてとても嬉しく思います。学

校での楽しい生活が毎日の練習を頑張る力になっています。先生方や仲良くしてくれるお友達に感謝をお伝えしたいです。ピアニストになる夢を叶えるため、これからも頑張ります。

合唱団 六年生一回

第七十七回 全日本合唱コンクール全国大会 小学生部門

金賞 及び 郡山市教育委員会教育長賞  
私達ドミニコ合唱団の使命はハーモニーに【祈り】を含め【希望】を届けることです。仲間と団結し、曲を通して伝えたいテーマを考えながら練習を重ね、沢山のステージで歌声を響かせてきた全ての経験が受賞という形にもなり光栄に思います。合唱団で学んだ【感謝】の思いを胸に、これからも大好きな歌を楽しんでいきます。



## 中学校

### 未来に向かって

中学校主任 三年A組担任 小野 景子



責任感が強く、しっかり者の人。竹刀を握らせれば敵なしの人。学習意欲で級友の背を後押ししてくれた人。ユーモアと

センスを日々撒き歩いてくれた人。「次こそ寝ない！」と目標を立てた数分後には先生の声を子守歌にする人。個性はバラバラ、しかし、ここぞと言う時にはしっかり団結力を見せてくれる十四人。屈託なく笑う姿を見ているといつも元気をもらいます。そんな毎日に触れるのがわたしの癒しでした。

感染症対策の緩和が与えた影響は大きいものがありました。これまでマスクの下に隠れていたかわいらしい笑顔や、それまで知らなかった喜怒哀楽の表情をたくさん見ることができました。聖堂朝礼では全校生徒に盛大な拍手をもらいながら堂々と賞状を受け取ることができました。文化祭の前日準備ではとくに過ぎていた下校時間に目をつむりながら、みんなで一生懸命にきゅうりの一本漬のお世話をしたことは今だから話せるいい思い出ですね。

いよいよ最後を迎える中学校生活を振り返った時、その全てが楽しい思い出に満ちてはいないでしょう。毎日せわしなく訪れる感情の変化に涙が溢れたことも、友人との距離感に悩み、お互いの心に怪我を負わせ合ったことも、全部があなたにとってかけがえのない時間でした。その時間を一緒に乗り越え支えてくれた大切な仲間がいたからこそ、今のあなたがいます。いつも笑顔をくれたみなさんへ。同じ教室

で笑い合えることがあと少しと思うと寂しい気持ちでいっぱいですが、共に過ごした時間を宝物に変えて、あらたな場所で飛躍する十四人の未来が輝かしいものとなるよう、心からお祈りしています。

### 職場訪問に行つて

一年A組 高橋 和花



授業の一環として「レストラン HACHI」の本社「8LAB」に職場訪問をしました。私はレストラン

HACHIに行つたことが無かったのでワクワクしながら向かいました。本社に入ると、ふりかけやキーホルダー、グラスなどたくさんの商品が販売・展示されていました。それぞれ「8」がモチーフになっている商品でもかわいい商品ばかりでした。その奥には、実際に店舗で販売されている商品の食品サンプルが置かれていて、そのサンプルから湯気が出てきそうなくらい本当に美味しそうに見えました。

販売している商品のデザイン担当の方々から、「HACHIらしい色や文字の形を意識して作っている」というお話を聞いて、「だから入って少し先に展示してあった商品がこんなお店に馴染んで見えるのだな」と思いました。また、本社で働いている方々も実際に店舗にお客様として来店する、という話を聞いて、お客様の気持ちを少しでも実感することとで老若男女問わずたくさんの人たちに来てもらいたい！という会社の強い想いが感じられました。

今回の職場訪問を通して、自分たちらしく工夫をして学校生活を送ること、そして、相手の気持ちになって考え行動することの大切さを学ぶことができました。

### 令和六年度 心の輪を広げる体験作文 全国中央大会 中学生区分 佳作 体験から広がった世界

二年A組 庄子 結士



私は中学一年生の春休みに右足を骨折しました。晴れてむかえた中学二年生の新学期は人生で初めての骨折とギプス、

松葉杖生活から始まりました。はじめは簡単な気持ちでした。「松葉杖なんてすぐ慣れる、どうにかなる。」と考えていました。怪我をしてすぐの時は、ヒーローになったみたいみんなが集まってきて松葉杖に興味を持ったギプスに触ってみたりしていました。みんなが興味を持ってくれてうれしかったです。しかし、毎日だるまのように出来ないこと、難しいことは増えました。

当たり前に通っていた通学路の何気ないかたむきやでこぼこ松葉杖の運びかたに苦戦したり、二段飛びで上り下りしていた階段も一歩ずつしかできなくなりました。

すぐにドアも開けられない、手に荷物を持つて歩くこともできない、雨が降って来た時には傘を持っていてもさすことができませんでした。雨ですべる松葉杖でこけそうになってハラハラドキドキしました。部活動の遠征に参加して「ゆっくり来たいよ」と言われても、一生懸命に松葉杖で歩いても急いでもどんどんみんなから距離が離れるとなんだか悲しい気持ちになりました。「二階の観覧席から荷物を持ってきて」と言われても人混みを松葉杖で移動し階段を上り下りするの大変でした。でも「できない」と言ったら何も役に立っていないようで自分なんか必要ないんじゃないかという気持ちになりそうでした。もちろん沢山の人が「大丈夫？」と声をかけてくれました。でも私には「大丈夫じゃ

### 活躍するドミニコ生

【聖トニシ学院中学校】

○第四十九回ふれあい書道展

奨励賞 3年 伊藤 紗瑛

○第七十四回仙台市中学校英語暗唱大会

奨励賞 3年 相馬 未来

○高円宮杯第七十六回全日本中学校英語弁論大会  
仙台市予選大会

奨励賞 2年 菅野ひばり

○仙台市中学校弁論大会

優良賞 3年 村上 舞

○令和六年度仙台市武道まつり剣道大会

第1位 高橋 和花

第3位 1年 蟹澤 心陽

○令和六年度仙台市中学校新人大会

女子団体 Dブロック 第1位 剣道部

1年女子個人 Bブロック 第1位 高橋 和花

2年女子個人 Aブロック 第1位 堀江葵咲

Dブロック 第1位 佐々木りく

男子団体 Aブロック 第1位 剣道部

1年男子個人 Bブロック 第1位 鹿野 柊飛

2年男子個人 Cブロック 第2位 庄子 結士

○SEIBUNアートグランプリ2024

佳作賞 3年 菊地 奈緒

○宮城県中学校体育連盟

優秀選手賞・功績賞

3年 蟹澤 結介

橋本 倅

門間 海杜

○第四回国際音楽コンクール東京

声楽ジュニア部門 第5位 2年 松本 廉生

○令和六年度第六十三回宮城県県形教育作品展

特選 3年 菊地 奈緒

○第八回宮城県中学校新人剣道選抜大会

女子団体 第1位 剣道部

1年女子個人 第1位 高橋 和花

2年女子個人 第1位 佐々木りく

○令和六年度 仙台市中心の輪を広げる体験作文コンクール

最優秀賞 2年 庄子 結士

優秀賞 2年 菅野ひばり

○令和六年度 仙台市障害者週間のポスター

最優秀賞 2年 木村 仁

優秀賞 2年 佐藤 菜月

○令和六年度 心の輪を広げる体験作文

中学生区分 佳作 2年 庄子 結士

○令和六年度校内読書感想文コンクール

最優秀賞 1年 向井 一

優秀賞 3年 大平ありす

佳作 2年 木村 仁

○第十二回復興の詩独唱コンテスト

金賞 3年 大島 穂香

○栃の葉カップ剣道大会

女子 Aブロック 準優勝 剣道部

ない、助けてよ」と言葉にする勇氣はありませんでした。そして迷惑をかけては申し訳ないといいつい「大丈夫です」と言っていました。

そんな中で、部活動の先輩がさりげなく私の荷物を持ってくれたりドアを開けてくれたり、自分が雨にぬれているのに一生懸命に私に傘をさしてくれました。急いでいいときには私の歩幅やスピードに合わせて一緒にゆっくりと歩いてくれました。私は先輩の優しさがうれしくていつも感謝していました。分かっていてくれる人がいると段々と心も元氣になっていきました。

私の松葉杖とギブス生活は四十二日間で終了しました。その生活を通じて日常生活にはたくさんの不便があることを感じました。それと同時に、親切にしてくれる人のあたたかさに触れる貴重な時間になりました。私のようにせつなく声をかけてくれて「大丈夫」と断つてしまう人にどう手伝ってあげたらいいのか、迷う人もあると思います。「申し訳ない」という思いで気持ちに反して断つてしまうこともあると知ってほしいです。それでも「いいよ手伝うよ」と寄り添ってくれたり、見守って歩幅を合わせてくれたり、さりげなくやってくれた時に、決して嫌な気持ちになんてならなかったことも知っていてほしいです。

私は身近に障害をもった人がいないので自分が怪我をしたときの目線から、障害を持った人との関わりについて考えてみました。これからもし障害を持った人に出会い困っている人がいたら、私はこの経験をいかして、分かってほしい勇氣を出して歩み寄りたいと思います。また私のこの経験を知った人が、思いをめぐらせて、少しでもその時の気持ちを同じ様に感じ取ってくれたらいいなと思います。そして障害をもった人がいたら分かってうとしたり、勇氣を出して歩みよったりする人が増えたらいいなと考えています。

## 原爆の記憶が教えてくれること

三年A組 村上 舞



私たちは中学三年生は修学旅行で長崎県を訪れました。長崎では原爆に関する平和教育に、深く心を揺さぶられました。

講話では、被爆者の方が語る体験談を通して、戦争の恐ろしさや核兵器の非人道性を改めて実感しました。一瞬で多くの命が奪われ、生き残った人々も後遺症や差別に苦しみ続けている現実に触れることで、自分の無知を痛感すると同時に、「平和」の大切さを改めて強く感じました。

原爆資料館では、写真や映像、実物の遺品を目の当たりにし、想像を超えた惨状に言葉を失いました。焼け焦げた衣服や瓦礫、犠牲者の無念が込められた展示物を通して、数字では表せない人々の苦しみが伝わってきました。また、被爆地がどのように復興を遂げたのか、平和の象徴となった現在までの過程を知り、希望の光を感じました。

今回の学びを通じて、私たち一人ひとりが平和を守る意識を持つことの重要性を痛感しました。この経験を忘れず、未来の平和な世界を築くため、自分たちに何ができるかを考え続けたいと思います。



## 成長を支えてくれたもの

三年A組 西村 真愛



私の中学校生活を振り返ると、多くの人に恵まれた三年間だったなと思います。クラスメイトや先輩方、担任の先生、また顧問の先生や部活動の仲間、生徒会メンバーとその先生方など、様々な方々と関わり学校生活を過ごしてきました。学校生活の中では辛いことや逃げたくなるようなことがたくさんありましたが、そんな時いつも傍で支えてくれたのは私の身近にいる人たちでした。支えてくれた多くの人たちとともに、楽しいことも苦しいことも一緒に共有し合いながら充実した時間を過ごすことができたと思っています。

クラスでの思い出はもちろんのこと、生徒会長や部長など、普通では体験できないような経験をたくさんさせていただき、この経験のおかげで一年生の時よりも心身ともに成長することができました。その全ては、やはり周りの方々のおかげで成り立っていたことだと思っています。

悩むことが多かった三年間ではありましたが、そんな時に掛けてもらった優しい言葉や支えがなければここまで来ることができなかったと思います。中学校生活の経験を糧に、今後も関わることとなる全ての方々とのご縁を大切に、日々感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思っています。

私に関わってくださった全ての皆さまへ。三年間、本当にありがとうございました。



○令和六年度 仙台市小・中学校図工・美術合同展 入選 3年 伊藤 紗瑛

○第七十二回全国小中高児童生徒 川開書道展 銀賞 3年 伊藤 紗瑛

○第四十七回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール 声楽部門 中学生の部 第1位 2年 松本 廉生

○第三十八回中学校宮城県剣道選手権大会 女子団体 優勝(三連覇) 剣道部

○宮城県中学校体育連盟 功績賞(宮城中総体三年連続優勝) 女子剣道部

○宮城県高等学校体育連盟優秀選手表彰 優秀選手賞 3年 氏家 悠愛

○第四十六回仙台市私立高等学校女子バレーボール秋季大会 女子の部 第2位 2年 バレーボール部

○令和六年度宮城県高等学校新人大会剣道競技 女子団体 第3位 剣道部

○宮城県高等学校体育連盟 剣道専門部 功労賞 3年 伊藤 心音

○令和六年度校内読書感想文コンクール 最優秀賞 1年 永沼 陽向

○第五回ビクトリーカップ高等学校女子バレーボール交流大会 準優勝 バレーボール部

○第三十六回宮城県合唱アンサンブルコンテスト 高等学校部門 デジタル絵本・紙芝居コンテスト 佳作 2年 伊藤 紀子

○第七十二回全国小中高児童生徒 川開書道展 特選 2年 川開書道展

○金賞 2年 早坂 歩未

○銀賞 2年 竹野はるい

○銀賞 2年 枝松 莉子

○佳作 1年 小関 夏芽

○佳作 1年 安齋ハルナ

○佳作 1年 井原 咲南

○佳作 1年 奥山 葵生

○佳作 1年 伊藤 心音

○佳作 1年 伊藤 心音

○佳作 1年 伊藤 心音

○佳作 1年 伊藤 心音

○佳作 1年 伊藤 心音

○佳作 1年 伊藤 心音

○佳作 1年 伊藤 心音

○佳作 1年 伊藤 心音

○佳作 1年 伊藤 心音

○佳作 1年 伊藤 心音

○佳作 1年 伊藤 心音

## 高等学校

### 三年生を担当して

三学年主任・三年二組担任 前田 朱実



早いもので三年生が卒業を迎える。生徒が入学した三年前、私は中学一年生の担任だった。自分の身体の半分しかないような生徒たちと一年間を過ごした。そして突然高校二年生の担任になった。授業も担当していなかったで、まったく予備知識がなかった。担任は休まず続けているが、クラスの雰囲気は全然違う。メンバーが違うので当たり前だが、今まで同じようなクラスは一つもない。だから新入生を担当するとき、学年の途中から担任するときは期待と同時に不安も感じる。

この文章が印刷されて配布されるときはもう明日にでも卒業式、というタイミングだと思う。三年生の皆さん、保護者の方々に感謝しましょう。保護者の方のおかげで皆さんの今があります。もちろん、進路実現のためにどんなに努力したか、私たち教員はそばで見えました。でも日々生活する中で保護者の方が寄り添ってくれたからこそ、進路も決まり、高校も卒業するのです。これからは自分で判断することも増えます。自分の行動が最善なのか、考えてみてください。高校三年生も、中学三年生もおめでとう。三年間、思いやりの気持ちに何度助けられたかわかりません。幸せになってください。



### 愛すべき三年一組の四人へ

三年一組担任 橋本 ひかり



卒業に向けて、特に伝えたいことは、「相談する相手は慎重に選ぶ」ということです。

世の中には、親身をよそおい、平気で相談内容をべらべらと関係のない人に話す人が残念ながら、います。その一方で、問題解決に向けて真摯に耳を傾けて行動してくれる人もいます。悩み事の半分は人に話すことで心の負担感が減ると言われています。三年一組の皆さんは、良くも悪くも我慢強いところがあります。自分の中に、ストレスを必要以上にため込まずにいてほしいです。もし、心にいろいろたまり始めたら、いつでも話にきてください。また、人生は、自分の軸（大切にしたいもの）を見失わなければ、なんとかなります。他人の軸に惑わされないでください。

人生の中で、四人に出会えて本当に良かったです。私はいつまでも、四人の幸せを願っています。お互い、それぞれの場所へ夢に向かって頑張りました。



### 「二期一会」

三年三組担任 佐々木 和代



今年度、教員生活十年目を迎える三度目の卒業生を見送ることができた。共に過ごした日々は、全力で生徒と向き合ってきたからこそ一瞬一瞬が宝物だ。そんな可愛いみんなに三つの言葉を送る。

「今を重ねて、生ききる」今、自分がやることを面倒と思わずにやる。その積み重ねが人生を生ききることに繋がる。

「大成した人々は誰よりも多くの失敗を重ねている」一度や二度の失敗で物事を諦めてしまいう人が多い。とくに若い人は、失敗してもまだまだ失敗が足りないと考えて取り組みることが大切。

「苦痛苦悩は比較の問題である。上を見て、下を見て一喜一憂するな」全てにおいて他人を意識している人がいる。自分が主役の人生、持たざるを嘆かず。他人と自分を比較しないこと。

この言葉は図書館でふと目についたノーベル賞を受賞した大村智さんの本の一部だ。

これからの人生、自分のやりたいこと、なりたいたい自分に向かって目一杯楽しんでください。皆が笑顔なら私も幸せです。

ドミニコ学院に入學してくれた生徒の皆、ここまでどんな時も支えてくださった保護者の皆様、三年間ありがとうございました。



### 三年間を振り返って

三年二組 徳田 鈴子



私は、ドミニコの卒業生である姉がきっかけでドミニコを知りました。アットホームな雰囲気、女子校であったことなどから、魅力的に感じ、入学を決めました。

入学すると、先生方や同じクラスの子が私をよく見てくれ、褒めてくれる人たちがいたので、安心したのを覚えています。そこから高校三年間は、長いようで短く感じます。体育祭、球技大会、文化祭、修学旅行などの様々な行事を通して、協力の大切さ、楽しさ、やりがいなどを学ぶことができた、良い経験となりました。また、高校二年生の時に制作した絵本が最優秀賞に選ばれたことも印象に残っています。このことを通し、芸術系の大学への進学を希望するようになりました。

このように、ドミニコで多くの人と関わり、将来につながる多くの経験ができました。ドミニコでの経験、学んだことを忘れず、大学で勉学に励み、多くの人の役に立てるように努力し、将来、社会貢献ができるようになります。

### 聖ドミニコ学院での一年を振り返って

一年一組 日景 和実



私がこの一年を通して学んだことや体験したこと、成功や失敗したこと、色々ありますが、特に良かったと思うのは、クラスの仲間と過ごす日々の楽しさを知れたことです。そして振り返って思い出されるのは特別な行事などではなく、クラスでの何気ない日々です。

私のクラス人数は六人とやや少ないですが、個性豊かなメンバーで毎日楽しく過ごして

ています。朝の「おはよう」から始まり、帰りの「さようなら」まで、他の人から見れば他愛のない普通の日常かもしれませんが、クラスの人達と共に数学の小テストの脅威に怯えたり、円になって話しながらお弁当を食べたり、日直じゃんけんに一喜一憂したり、黒板に落書きをしたり、勉強や雑談をしたり。ささいなことでも笑いあえる何気ない日常は私にとって特別な時間です。きつこの先の人生で何度か思い出さるであろうかけがえのない時間を、私は今、過ごしています。日々をクラスの仲間と共に過ごせることに感謝して、これからの学校生活も存分に楽しみたいと思います。

## 修学旅行を終えて

第二学年主任 小野 尚

高校時代の中で最も印象に残る修学旅行が、今年も十二月二日から三泊四日実施されました。目的地は関西。修学旅行期間中の天候は晴れ。生徒たちは日常生活から離れ、奈良・大阪・京都でたくさん思い出ができて、いろいろなことを学んだようです。

## 修学旅行を振り返って

二年三組 佐藤 佑香

(仙台市立南中学校出身)

今回の修学旅行の中で私が学んだことは三つあります。

一つ目は自分達の力で行動することです。自主研修ではグループ四人の力を合わせて目的地に着く必要がありました。時間を気にしながら行動することを心がけることで自然と五分前行動をすることができ、ほとんど計画通りに予定を終わらせることができました。

二つ目は周りの人に伝えることです。今回はグループの班長をしました。先生から連絡を受け取ることが多い役割でした。話を聞きながらメモをとることで、グループの人にも連絡事項を正確に伝えられ、良い経験になりました。自分が理解して伝えることで周囲の人にもより理解してもらいやすくなる

分かりました。

三つ目は周囲をよく見ることです。今回訪れた地域には私たち修学旅行生の他にも海外から来た人や地域の人がたくさんいました。私たちが楽しみに来ているのではないということ意識して四日間を過ごすことができました。

この修学旅行を通して私はたくさん気づき、学ぶことができました。この経験を活かしてこれからの高校生活も有意義なものにしていきたいと思っています。

## 悲願の……

特別進学コースリーダー 橋本 ひかり

特別進学コース最後の女子クラスで有終の美を飾ることができました。今年度は、東北大学教育学部への合格をはじめとして、一人ひとりが目標達成を果たすことが出来た年でした。下級生にとって、上級生の頑張る姿は身近な目標になると考えます。また、夏の学習合宿を久しぶりに実施しました。二、三年生にとって自分自身の体力や気力、苦手科目と向き合う良い機会になったと思います。

生徒がふと言った、忘れられない言葉があります。「勉強はきついけど……知らなかったことを知るの、出来なかったことが出来る



るようになるのはシンプルに楽しい」。満面の笑みで話す彼女の顔を眺めながら、学問の真髄を見た気持ちになりました。少人数のあたたかい環境の中で、性別関係なく、お互いを尊重して勉強に取り組んでいます。今後も、生徒の目標実現のために、勉強面はもちろん生徒のメンタルケアを欠かさずにおこなっていきます。

## 第二回「高大連携授業」

総合進学コースリーダー 伊藤 崇

総合進学コースでは、一、二年生を対象に、二月七日(金)六・七校時に第二回目の「高大連携授業」を行いました。この授業は、大学の先生から実際の研究内容や進路について学ぶ模擬授業や体験活動を通して、上級学校に進学するための学習意欲を高めるためのコース行事です。

今回は、講師として仙台青葉学院大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科の熊谷竜太先生に御来校いただき、「幸せに生きるためのヒント」というテーマで、授業を行っていただきました。生徒達は前半の授業で、日本人の五人に一人は「精神疾患」になる可能性があることを学んだあと、チェックシートを使って

自分の精神状態を客観的に確認する機会を持ちつつ、後半の授業では、「精神疾患」の要因であるストレスを緩和するために重要な3R(Rest・Relaxation・Recreation)の大切



「自分が信頼できる人に相談することは決して弱さなどではなく、むしろ強さである」とこの大切さを学びました。生徒たちはみな、2時間の授業に集中して取り組んでいました。

## 未来探究進学コース一期生卒業

未来探究進学コースリーダー 石川 裕之

未来探究進学コースの三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。未来探究コースが発足して三年が経ち、三学年が揃い、いよいよ一期生が卒業します。一期生の皆さんは入学当初から元気で、個性豊かでもユニークなクラスでした。私も副担として、コースリーダーとして関わっていたので、毎日楽しかったこと疲れましたが、この昨日のことのように憶えています。体育行事や文化祭、宗教行事も含め、何事にも積極的に取り組んでくれました。意外といつては失礼かもしれませんが、普段の様子から想像できないくらい真剣に向き合っていたと思います。学年が上がる度にメリハリのある姿を見せてくれた皆さんをととても頼もしく感じていました。そんな成長を続けてきた皆さんだからこそ進路目標を達成し、一

期生として後輩たちに道を示してくれたと思います。

来年からコースが改変されて、未来探究進学コースは現一、二年生のみになります。一期生の先輩たちの背中を追いかけて、それぞれの進路に向かって突き進んでほしいです。



## 学年を超えた交流

小学校校長 代行 森 研二



本校は各学年三十五名〜四十名で構成される単級級の学校です。基本的には各学級を中心に子供たちは学校生活を送っていますが、学年の枠を越えて、異学年の子供たち同士が交流する場を多く設けています。

運動会やドミニコ祭り、花山合宿

遠足などの様々な行事では各学年を六色に分け、六つのたてわりチームで活動しています。また、毎週水曜日の休み時間には「たてわり交流の日」を設け、二つの学年が一緒に鬼ごっこやドッジボールなどをして遊びます。これらの活動を通して、上級生は思いやりの精神や自立の精神を育み、下級生は敬いの念や自分の成長像（目標とする姿）を理解していくようになります。最近では情報化が進み、携帯やパソコンのゲームの中で、またはSNSを利用

## 転ばぬ先の杖、転んだあとの杖

聖ドミニコ学院幼稚園

園長 京 けい子



転ばぬ先の備えをしておかなかったために起こった私の出来事です。

少し前に股関節を痛め、歩くとき痛い状態に。杖を使おうとも思ったのですが、何となく格好が悪いような感じがして、我慢して過ごしていました。ところが先日、不可抗力で体をひねっ

て転倒、歩くとき痛いのでついに杖を購入。使ってみたら何となく痛くないのです。杖があつたらそもそも転ばなかったと思いますが…。これぞ「転ばぬ先の杖」かと思うと同時に「転んだあとの杖」にも学びがあると思いました。転んだからこそ「転ばぬ先の杖」が大事だったのですから。

子どもは成長の過程で、躓くことも転ぶこともあるでしょう。大人が先回りして手を貸しすぎるのではなく、子どもが自分の力で乗り越えることを見守ることが、子どもの本当の力につながるのだと実感しました。もちろん、転ばぬ先の杖の教えは素晴らしいです。十分に計画し備えることが大切と教えているのですから。

## 春に向けて

北仙台幼稚園長 土井 浩喜



スクールバス乗車までの短い道のりを、年長児と年少児が並んで歩いています。その後ろ姿をみながら、しっかりと足取りに成長を感じていました。

春の年少児は、ベレー帽と制服がバックを背負っているようで、その手

も足も見えない状況で先生に抱かれたり、年長児に手を引かれたりしておぼつかない足取りでようやく歩き、バスの入り口まで向かっていたものです。この一年、外で元気に走り回り集団活動を経験し、子供たちの足腰はしっかりしてきました。足がしっかりしていると、動きに自信が出てきます。自分ができる事が増えることで、自分のことだけではなく周りのことにも気を配ることができるようになってきました。力を合わせて物を作ったり、後

片付けをしたりと大人の力を借りるのではなく、自分たちで物事を解決しようとする力もついてきました。年長児の卒園の時も、もうすぐです。一年間リーダーとして活躍した子供たちは、小学校に進みどんな成長を見せてくれるのでしょうか。そして年中児や年少児は、新しく入る園児のお世話をどんな様子ですのでしょうか。一人ひとりの成長が見える楽しみな春です。

## 出会いと達成感

高校一年保護者 小関 しのぶ



今年度四月に娘が高等学校の特進コースに入學し、後援会役員としていただきました。

高等学校での役員は初めてでしたので、引き受けたときは、しっかりと役割を果たすことができるのか不安がありました。しかしながら、先生方や後援会役員の保護者の皆さんがとても温かく、アットホームな雰囲気です。出来ることをそれぞれ出来る分だけ、負担のないように役員の仕事をしてくださいます」というお言葉もあり、安心して取り組むことができました。

活動の中でも、ドミニコ祭バザー委員としての仕事は、事前準備の大変さはあったものの、役員の皆さんと交流を深めながら準備ができたことで、学校や他の生徒の皆さんの様子などを知ることができ、高校生活を送る娘と関わっていく上でとても参考になりました。そして当日の販売は、生徒の皆さんや地域の方々との関わりがあり、とても達成感のある仕事となりました。微力ではありますが、来年度も子どもたちや学校のために取り組んでいくことができればと考えております。

令和七年三月卒業生 六十三回生の進路状況

(令和7年2月19日現在)

## 【大学合格者】(35名)

東北大学  
東北学院大学(6)・東北工業大学・東北福祉大学(5)・東北医科大学・宮城学院女子大学(2)・尚絅学院大学(2)・東北文化学園大学・仙台大学(2)・仙台白百合女子大学・仙台青葉学院大学(2)・東北芸術工科大学(2)・奥羽大学・新潟薬科大学・清泉女子大学

建国大学校KU融合科学技術院(KONKUK UNIVERSITY Institute of Technology)  
慶熙大学校  
(KYONGHEE UNIVERSITY)  
国立大学公州大学校  
(Kongju National University)  
同徳女子大学校  
(Dongduk Women's University)

## 【短期大学合格者】(7名)

聖和学園短期大学(3)・仙台青葉学院短期大学(4)

## 【専修学校各種学校合格者】(8名)

仙台医師会看護専門学校・仙台BCO動物海洋専門学校(2)・仙台こども専門学校(2)・仙台ビューティーアート専門学校・東北保健医療専門学校・日本デザインナー芸術学院

## 【就職内定者】(1名)

株式会社 MAYURA

